九中だより

令和７年１月１５日(水)

第９号

立川市立立川第九中学校 校長 敦澤 雅規

TEL042-535-1415 Fax042-534-6958

教育目標　やさしく・かしこく・たくましく

令和６年度３学期が始まりました

校長　敦澤　雅規

令和７年が始まりました。この正月は家族や親戚と話をする機会も多かったのではないでしょうか。短い冬休みでしたが、「今年は〇〇を達成するぞ！」などと、令和７年の抱負や新たな目標がもてたらいいなと思っています。さらにはそれを家庭で語り合えていたら嬉しいです。さて、３学期は１年生がスキー教室、２年生は校外学習と、大きな行事も待っています。行事は自他を大切にし、互いに支え高め合う「共に学ぶ集団」としての支持的風土をつくるチャンスです。３年生は自らの手で自らの進路を切り拓く経験を積むことになります。いずれも、大きく成長できる３学期だと考えています。生徒のみなさんの頑張りに期待しています。

【３学期始業式より】

新年あけましておめでとうございます。１３日間の休みを終えて、今、こうして皆さんと３学期の始業式を迎えられたことを、心から感謝したいと思います。

さて、今年度は「自ら学び考え、主体的に物事に取り組み行動できること」というテーマで、話をしてきました。でも正直、この言葉って今一つ意味が分かりにくいですよね。ですので、私の経験で当てはまりそうな話を、今日はしたいと思います。

今年もあと２か月ほどすると、東日本大震災から１４年になります。みなさんとほぼ同じ年なので、当時を覚えている人はいないと思います。東北地方を中心に、１０ｍを超える高さの津波が押し寄せるなどして、２万人以上の死者・行方不明者が出ました。私は母親が秋田県の出身で生まれた病院も秋田県なので、東北地方の災害は他人事とは思えませんでした。そこで自分に何かできることはないかと考え、地震から９か月後、宮城県の南三陸町などを訪ねました。９か月経っても現地は荒れ果てていました。建物は倒れ、病院の屋根の上に大きな船が取り残され、中学校の教室の時計は午後２時４６分で止まり、家は土台だけを残して跡形もなくなっていました。津波から生き延びた方のお話も聞きました。結局、何もできずに帰ってきました。…その３年後、今度はボランティア活動を申し込んで、再び南三陸町に行きました。町はがれきがなくなったものの、あまり変わっていませんでした。そんな中でも小さな漁村の作業場で頑張って働き始めた人たちもいて、ワカメを袋詰めする作業などを手伝って帰ってきました。

南三陸町で見たことや聞いたこと、思ったこと、学んだことは、今でも鮮明に覚えているし、行ってみなければ分からなかったことばかりで、行ってよかったと思いました。今でも私が生きていく上での支えになり、元気・勇気の源になっています。

私の経験話はさておき、ぜひみなさんも「問題を解決したり現状を良くしたりするために、自ら課題や目標を設定し、判断し、責任をもって行動」してみてください。「やらされるのではなく、何をどうすればいいのか考えてやってみる」。チャレンジしてみませんか？

３年生の皆さん、いよいよ進路決定の時期ですね。不安で気持ちが揺れ動くこともあるかもしれませんが、皆さんは決して一人ではありません。九中には共に学んできた仲間や応援してくれる先生たちがいます。仲間と共に自らの進路を切り拓いていってほしいと思います。応援しています。

１、２年生の皆さんは、引き続き、自分を信じ、仲間を信じ、認め合い励まし合いながら、４月に入学してくる新入生から頼りにされるような先輩になってほしいと思います。

学校にとって、この１月から３月までの３ヶ月は、とても大切な時期です。１年間のまとめの時期であり、次のステップを踏み出す助走の時期です。みんなで心を一つにして、充実した３学期にしていきましょう。